

那覇西 後半爆発V3



①女子決勝 那覇西ーコザ 前半、那覇西の金城菜々子が中央からシュートを放つ。ANAアリーナ浦添(古謝克公撮影) ②女子優勝の那覇西

県高校ハンド

ハンドボールの第49回九州高校選抜大会県予選最終日は20日、ANAアリーナ浦添で決勝を行い、女子は那覇西がコザを19-11で下

して3年連続13度目の頂点に立った。男子は興南が那覇西を39-32で制し、4年連続30度目の優勝を飾った。男女の上位2校は九州大会(来年2月、宮崎県)の出場権を得た。

▽決勝
【男子】
興南 39-20 181-14 32 那覇西
【女子】
▽決勝
那覇西 19-11 127-6 11 11 コザ

興南耐えて4連覇

4連覇を飾った男子興南の黒島宣昭監督は試合後、渋い表情を浮かべた。「やってきたことが全然出せなかった。これじゃ駄目だ」と厳しい言葉ばかりが口を突く。39得点した攻撃には一定の評価をしたものの、32失点の守備には課題を残した。

男子 守備に課題

20-14の前半は興南ベース。だが後半は守備への戻りが遅く、勢いついた那覇西に逆速攻を食らい、点を取り合う展開に持ち込まれた。伊禮颯雅主将は「マークの声掛けやシュートを打った相手を見失ってしまっていた」と話すと反省する。

伊禮と共にセンターを担った照屋拓実は、元々はサイドポジションの選手。2年から司令塔に挑戦したばかりで「センターとしてもまだまだで、守備の課題も知った。九州までに今大会の反省を生かしていきたい」と話した。

GK比嘉の好守で勢い 女子



1点リードで前半を折り返した女子那覇西が、後半に突き放した。後半開始から約15分間で5得点し、守っては1失点に抑えて12-7と二気に点差を広げた。個々のシュート精度を課題に臨んだ今大会。比嘉律監督は「一人一人が前を狙っていくこと。前半と比べ、後半はコンスタントに決められた」とうなづいた。

堅守速攻が持ち味ながら、前半は「ちよつとした守備のミスが続ぎ、走り出せなかった」と金城望主将。開始から約7分間で両チーム無得点と決め手を欠く中、GKの比嘉楓が

「プレーヤーが苦しい時こそ止めたかった」と好セーブで踏ん張った。終わってみれば失点はわずか11点のみ。18歳以下女子日本代表にも選出された比嘉は「最初の前半が勝負だった。相手を悩ませるプレーがしたいと思っていて」と胸を張った。

今年の九州選抜は準優勝だった。リベンジを誓う金城主将は「大事な時に止めてくれる比嘉に頼りすぎています。もっと楽に守れるよう考えなきゃ」と課題も痛感した様子。全国制覇を目指し、成長を続けていく。(我喜屋あかね)



③男子決勝 興南ー那覇西 前半、興南の伊禮颯雅が6点目のシュートを決める④男子を制した興南